

ポーランド: 電子式課金システムが遅滞しつつの始動

掲載日	2011年7月4日
国名	ドイツ(ポーランド)
分類番号	課金
出典	Verkehrsrundschau 誌オンライン版
タイトル	Polen: Elektronisches Mautsystem startet mit Verzögerung

ポーランドの国道・自動車専用道路管理局は、昨日午前3時に、ポーランドの電子式課金システム『ヴィア・トル(via-Toll)』の運営が、カプシュ・トラフィック・コム(Kapsch Traffic-Com)のコンソーシアムによって始動したと伝えた。

本来であれば金曜日(7月1日)には、当初計画されていたすべての区間で通行料が徴収されることになっていた。しかしこの日には、コニン〜ストリクフ間(103 km)の手動式課金システムしか予定通り始動させることができなかった。技術上の問題のため、電子課金システムの運転開始は少し遅れることになった。以上のことは、カプシュ・トラフィック・コム・コンソーシアムが日曜にウィーンで通知したものだ。

このコンソーシアムはたった2ヶ月でポーランド国内の約1560kmにわたる道路網に、総重量3.5トンを超す車両に対する電子課金システムを設置した。新システムはそれまでこれらの区間で有効だったヴィニエツ(支払済証明ステッカー)に代わるものだ。

「今日までに約30万台がシステムに登録しています。今後数日間で一日に約2万5000台に交付されるものとみています」と、カプシュ・トラフィック・コムのマーケティング・マネージャーは述べた。ドライバーの関心が高いため、今やほとんどの販売所の担当者を増員し、営業時間を延長するという。すでに警察の不正通行監視官が課金区間内で、3.5トン以上の車両に課金システム車載器が装備されているかどうかを検査しているという。

ポーランドの運営共同体であるカプシュ・トラフィック・コムのコンソーシアムは、今後8年間、このシステムを『ヴィア・トル』という名称で商業的にも運営する意向である。計画によれば、課金システムはこの8年目以降も、継続的にさらに他の道路へ拡張されていく予定である。

カプシュ・トラフィック・コムによると、ポーランド財務省は、この課金システムが2011年中にも約4億ポーランド・ズォティ(1億ユーロ)の追加的な収入をもたらすと予想しているという。